

再稼働 議論の行方は

老朽原発3基 「安全対策評価」

運転開始から40年を超えた関西電力の老朽原発を再稼働させるのか、させないのか。県議会と知事の判断が注目される問題を巡り、動きが慌ただしくなっている。

9日午前、県原子力安全専門委員会は、美浜町の美浜3号機、高浜町の高浜1、2号機について、関電の安全対策を評価する趣旨の報告書案を示した。

安全対策の工事が残っている高浜2号機は「(高浜)1号機と同様の機能が確保されることを確認した」とし、工事終了後に現場を確認すると決めた。

席上、委員から「高経年化した(原子)炉は危険。動かすべきではない」との意見が出たが、鞍谷文保委員長は取材に「動かす、動かさないを判断する場ではない。安全対策の工事が講じられているのかを確認し、まとめるのがこの委員会の役目」と語った。報告書案は今後、細かい文言を修正し、知事に報告する。

午後には県議会各会派の代表者会議もあり、10分ほどで14日、15日に両発電所を視察することを決め、翌週には全員協議会を開く方

針を確認した。2月定例会では、材料不足を理由に判断を見送ったが、今月6日に知事が議長に改めて議論を要請していた。

会議に先立ち開かれた議

会運営委員会では第2会派、民主・みらいの辻一憲議員が「丁寧な議論が必要。ぜひ6月定例会で議論してほしい」と要望したが、代表者会議後に取材に応じた畑孝幸議長は「あまり長く時間をかけられないのではないか」と述べた。

(小田健司、山田健悟、佐藤孝之)